

2) 新津地域に追加する植物 (在来種と帰化種に区分して示すと次のようである)

[在来種の追加]

- タチタネツケバナ *Cardamine fallax* (O. E. Schulz) Nakai (写真 18) [あぶらな科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-392354('04, Photo 3119-20) [新津 5639-51-63]
- マルバヤハズソウ *Kummerowia stipulacea* (Maxim.) Makino (写真 19・20) [まめ科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-399935・401671('04, Photo 3216-12・3230-25) [新津 5639-51-63]
- ムシクサ *Veronica peregrina* L. (写真 21) [ごまのはぐさ科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-393528('04, Photo 3175-14~15) [新津 5639-51-63]
- カワジシャ *Veronica undulata* Wallich (写真 22) [ごまのはぐさ科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-393525('04, Photo 3175-13・23) [新津 5639-51-63]
- チョウセンガリヤス *Cleistogenes hackelii* (Honda) Honda (写真 22) [いね科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-398940('04, Photo 3120-18) [新津 5639-51-63]
- サドスゲ *Carex sadoensis* Franch. (写真 23) [かやつりぐさ科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-392366('04, Photo 3120-18) [新津 5639-51-63]

[帰化種の追加]

- ウスベニツメクサ *Spergularia rubra* (L.) J. Presl et C. Presl (写真 24) [なでしこ科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-393512・402506・402511('04, Photo 3174-34~E・3175-1~2) [新津 5639-51-63]
- シロイヌナズナ *Arabidopsis thaliana* (L.) Heynh. (写真 25) [あぶらな科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-392069('04, Photo 3099-16) [新津 5639-51-63]
- ミチタネツケバナ *Cardamine hirsuta* L. (写真 26) [あぶらな科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-392062('04, Photo 3099-18) [新津 5639-51-63]
- ヌカススキ *Aira caryophyllea* L. (写真 27) [いね科]
 新津市六郷阿賀野川沿い 3m: IS-399549('04, Photo 3175-30) [新津 5639-51-63]

阿賀野川沿い以外での追加種

- ウマノチャヒキ *Bromus tectorum* L. (写真 28) [いね科]
 新津市 JA 新津駅構内 4m: IS-394126('04, June 18) [新津 5639-50-59]

新潟県植物分布資料(4)

石 沢 進・朱 雁

新潟県で新たに確認した種、主に分布を欠いている地域での分布が確認できた種について記録する。

[略号] IS: 石沢の標本、IS-後の数字は標本番号で新潟植物資料室に保管; Photo: 写真ネガ番号; TY: 登坂裕一の標本、数字は標本番号で同氏保管、('04): 2004年の標本採集年あるいは写真撮影年、Photo: 写真資料、[] の数字: 地形図座標

*新潟県新記録

- ミヤコイヌワラビ *Athyrium frangulum* Tagawa (写真 1・2) オシダ科
 柏崎市米山町旗持山 75m: TY-27466・27655(2001)・29032(2003)・29467・26468(2004) [柿崎 382372-44、環境庁3次メッシュ 5538-73-75] 生育地の詳細は23頁参照
- オオクボシダ *Xiphopteris okuboi* (Yatabe) Copel. (写真 3~6) ヒメウラボシ科
 南魚沼郡六日町下津川 520m: 笹川通博 ('04 IS-Photo 3211-5~26) [八海山 5539-40-42]
- ヒメコウガイゼキショウ
 前項の新津丘陵の植物に掲載(2頁)。[13頁の写真1~4参照]

*新潟県分布追加記録

オオバノイノモトソウ *Pteris cretica* L.

(写真 7) イノモトソウ科

南魚沼郡湯沢町二居 790m: 佐藤政二(2004 IS-402758,
田村 健 Photo)[越後湯沢 5538-26-12]

本種の県内における分布は、阿賀野川・姫川ではやや
内陸部に分布する(鷺尾 1984)が、湯沢のように県境近
くの山地に生育するのは稀であり、川沿いに一株のみ生
育している(12月20日発見)。

フタバアオイ *Asarum caulescens* Maxim.

(写真 8) ウマノスズクサ科

南魚沼郡湯沢町元橋河内沢 1170m: IS-394959('04
Photo 3192-35)[四万 5538-16-55]; 本橋<松手山-地王
堂川>1200m: IS-389857('03 Photo 3009-3-4)[四万
5538-26-83]; 土樽(毛渡沢)770m: IS-345244('00
Photo 2142-6-7, 2143-27)[四万 5538-26-18]

以上のほか湯沢町には大島 700mに分布している(池
上・石沢 1990)。県内では、このように湯沢町には4ヶ所
にみられるだけで分布地点は少ない。県内ではこの他、
南蒲原郡田上町に隔離して生えている(図1参照)。

ヒメゴヨウイチゴ *Rubus pseudojaponicus* Koidz.

(写真 9) [ばら科]

南魚沼郡湯沢町元橋河内沢 1170m: IS-394959・394966('04 Photo 3192-36)[四万 5538-16-55]

湯沢町では、この河内沢の下流に生育しているが、県内の分布地点は少ない。

ミヤマククルマバナ *Clinopodium macranthum*

(Makino) H. Hara

(写真 10) [しそ科]

新発田市東赤谷 加治川ダム下 250m: IS-393434('04
Photo 3170-17)[津川 5639-53-79]

亜高山帯に分布しているが、ここでは低所の分布であ
る。

コメスキ *Deschampsia flexuosa* (L.) Trin.

(写真 11) [いね科]

新発田市東赤谷 加治川ダム下 250m: IS-393435・393440
('04 Photo 3170-18-22)[津川 5639-53-79]

亜高山帯に分布しているが、ここでは低所の分布であ
る。

アイズスゲ *Carex hondoensis* Ohwi

(写真 12) [かやつりぐさ科]

新発田市東赤谷 加治川ダム上 310m: IS-393428・393453
('94 Photo 3170-E)[津川 5639-53-79]

南魚沼郡湯沢町大島元橋河内沢 平標山 1190m: IS-
394945('04)[四万 5538-16-55]

県の南部の長野県では、下水内郡栄村平滝: IS-352059
(2001 5 28); 森宮野原: IS-351903(2001 5 27)に分布し
ている。

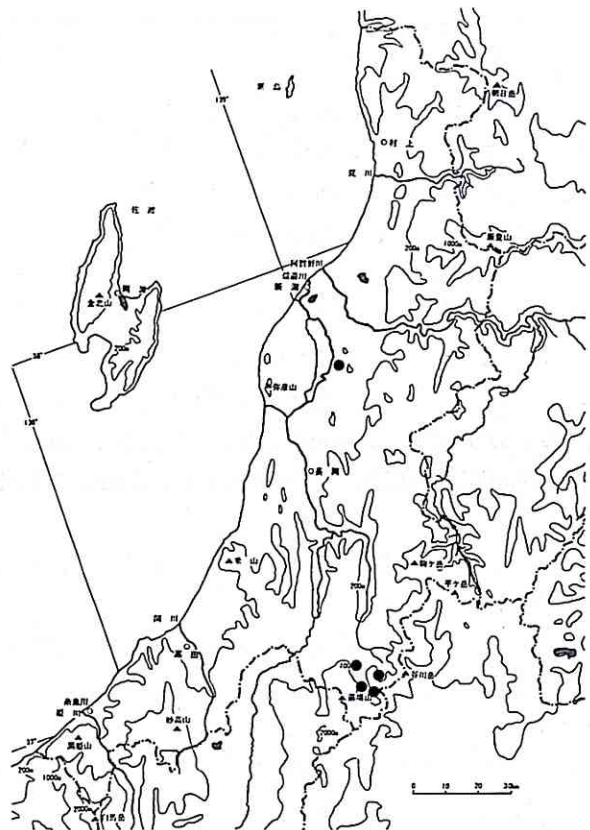


図1 フタバアオイの新潟県における分布図

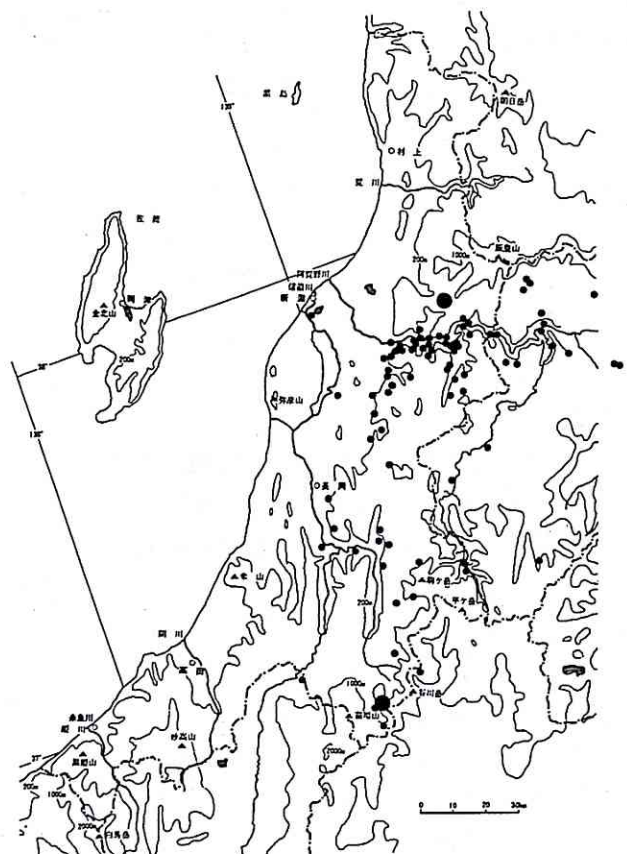
図2 アイズスゲの新潟県における分布
(松田 1981 ●分布追加)



写真 1 ミヤコイヌワラビ 柏崎市米山町旗持山 75m
Aug. 28, 2004:TY



写真 2 ミヤコイヌワラビ 柏崎市米山町旗持山 75m
Aug. 28, 2004:TY

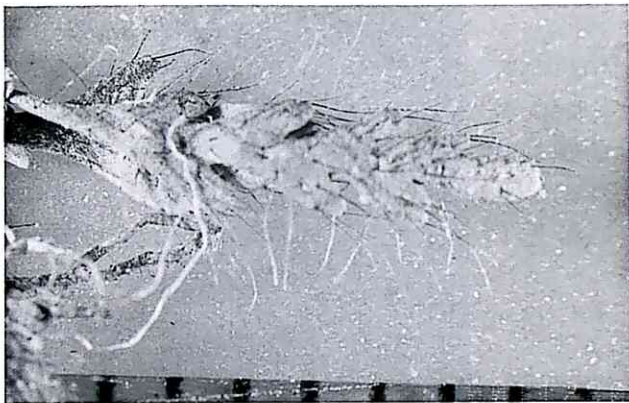


写真 3 表面 (×12.5で撮影)

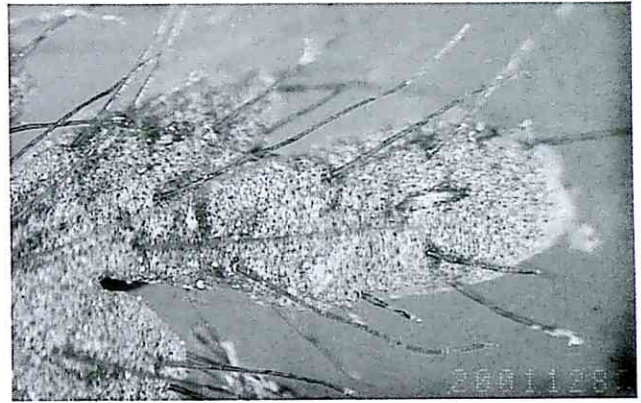


写真 4 (×50で撮影)

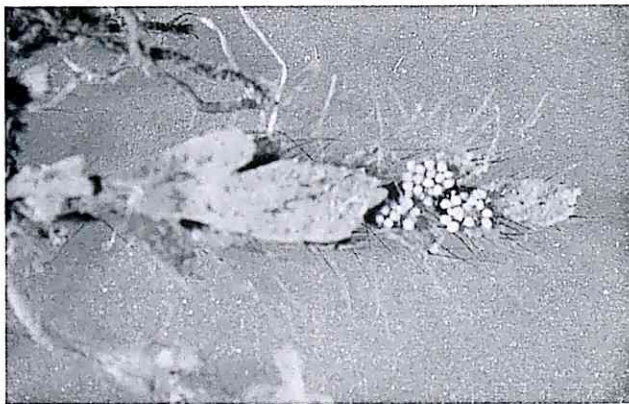


写真 5 裏面 (×12.5で撮影)

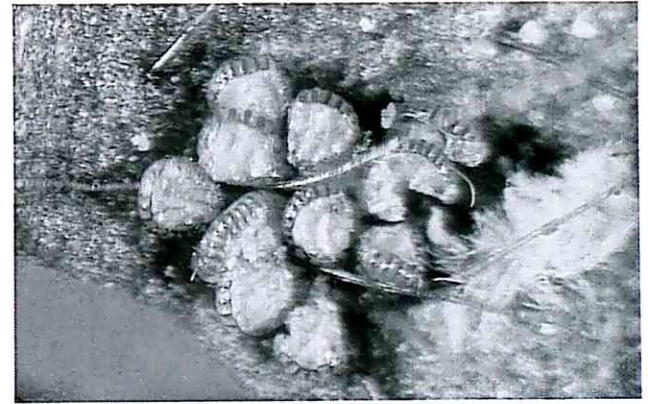


写真 6 胞子嚢 (×90で撮影)

写真 3~6 オオクボシダ 南魚沼郡六日町下津川 520m 笹川通博 Aug. 28, 2004



写真 7 オオバノイノモトソウ
南魚沼郡湯沢町二居 790m:佐藤政二(2004 Photo 田村 健)



写真 8 フタバアオイ 南魚沼郡湯沢町元橋 1170m
:IS-394959('04)



写真 9 ヒメゴユイチゴ 南魚沼郡湯沢町元橋 1170m
:IS-394959('04)



写真 10 ミヤマクルマバナ
新発田市東赤谷 加治川ダム下 250m 2004

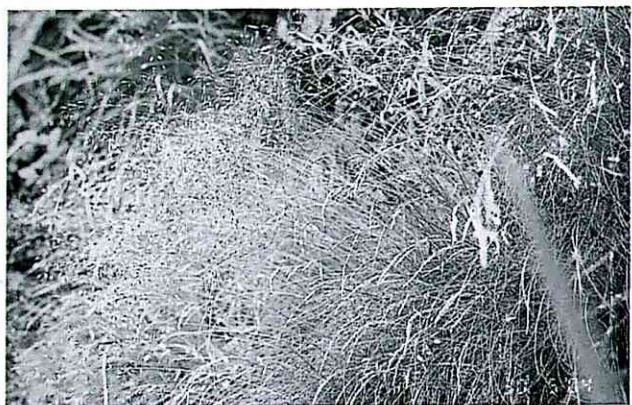


写真 11 コメスキ
新発田市東赤谷 加治川ダム下 250m 2004



写真 12 アイズゲ
新発田市東赤谷 加治川ダム上 310m 2004

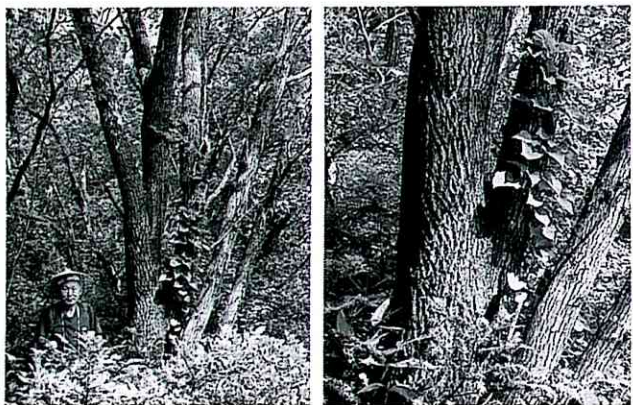


写真 13・14 ヨコグラノキ
南蒲原郡小須戸町鎌倉新田高立山 230m June 19, 2004

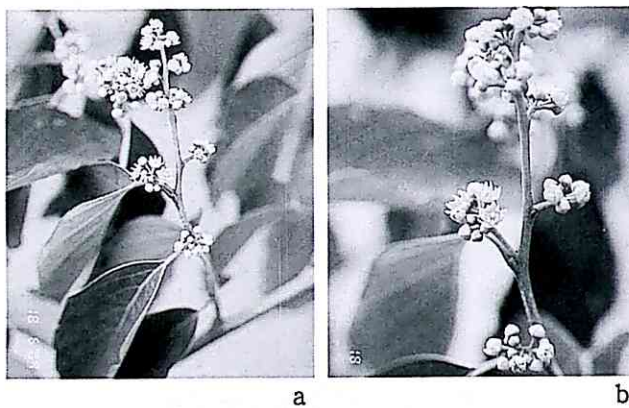


写真 15-a・b ヨコグラノキ (開花枝)
南蒲原郡小須戸町鎌倉新田高立山 230m June 18, 2004



写真 16 ヨコグラノキ (生育地での開花状況)
南蒲原郡小須戸町鎌倉新田高立山 230m June 18, 2004



写真 17 ホタルカズラ
南蒲原郡五泉市菅沢護摩堂山 200m Nov. 11, 2004

阿賀野川沿いには、多産するが、それより以北と県南部の分布を追加する(図2)。

新津市近隣に生育する稀産種：

ヨコグラノキ・ホタルカズラ

新津市に確認されていないが、近隣に分布する植物を明らかにすることで、新津市の植物相の特色がより明確になると思われるので、ここに記録する。今回は県内でも稀産であるヨコグラノキと分布上県内では偏りのあるホタルカズラを増井富雄氏の案内で確認できたので報告する(写真13~16)。

1. ヨコグラノキ

Berchemiella berchemiaefolia の生育地

新潟県におけるヨコグラノキの分布は、県南西部の頸城郡青海町に分布するほか、南蒲原郡田上町に隔離分布している(川端 1988 図3)。その後、南蒲原郡小須戸町高立山で増井富雄氏により分布が確認され(高橋 2002)、さらにその生育地を調査して報告している(高橋 2003)。2004年6月に増井富雄氏より、同所のヨコグラノキに多数着花した枝が届けられたので、現地を同行して頂いて生育地を調査した。

2004年6月19日の調査日には、ヨコグラノキが満開の状況であり、樹の下を通過するだけで、多数群がっているハチの羽音でその存在を知ることができるほどであった。間隔をわずかににおいて2箇所に生えており、それぞれの生育地の状態について以下に記録する。

ヨコグラノキは、上記のように分布域が限られていることから、新潟県では、地域個体群LPに位置づけている。[標本：IS-394133・394135('04 増田富男)]

小須戸町鎌倉新田~高立山では2ヶ所[以下(1)と(2)]に生育している[新津5639-40-78]。

(1) ヨコグラノキ生育地 [N37° 43.528分; E139° 06.658分 海拔230m]

南の斜面に高木(10m~)ヨコグラノキが3本株立ち(内2本枯死)で生育している。

3本株立ちの幹周：①130cm・②46cm(枯死)・③32.5cm(枯死)

この3本のヨコグラノキを中心にして周辺5×5mの範囲で調査

高木層(8m~)：ヨコグラノキの他、カスミザクラ1・1、コナラ1・1(枯死)。

亜高木層(2~8m以下)：コナラ+・1、カスミザクラ+・1、アズキナシ+・1、フジ+・1、イワガラミ+・1

低木層(80cm~2m)：チャボガヤ1・2、ユキツバキ1・2、アワブキ1・2、フジ+・1、エゾツリバナ+・1、ハイイヌツゲ+・1、

1、ハイイヌガヤ+・1、オクチョウジザクラ+・1、ツクバネ+・1、ナツハゼ+・1、コマユミ+・1、ハウチワカエデ+・1

草本層(80cm以下)：ユキツバキ1・2、チャボガヤ1・2、ヒメアオキ1・2、ホソバカンスゲ1・2、トキワイカリソウ1・2、ミヤマナルコユリ1・2、チゴユリ1・2、イワガラミ1・2、ヤブコウジ1・2、チマキザサ+・1、タマバシロヨメナ+・1、ヤマユリ+・1、ウワミズザクラ+・1、コナラ+・1、クリ+・1、フジ+・1、サルトリイバラ+・1、ハイイヌガヤ+・1、エゾツリバナ+・1、ミツバアケビ+・1、ツクバネ+・1、ヒメカンスゲ+・1、オオバクロモジ+・1、ヤマツツジ+・1、ヒメシャガ+・1、カマツカ+・1、コシノホンモンジスゲ+・1、ヤマウルシ+・1、アクシバ+・1、アズキナシ+・1、アキノキリンソウ+・1、ソヨゴ+・1

(2) ヨコグラノキ生育地 北の斜面(北北東、N37° 43.514分; E139° 06.723分 海拔240m)

北の斜面に高木のヨコグラノキが2本生育している。

2本のヨコグラノキの幹周：①78cm・②54cm；高さ10m以上



図3 ヨコグラノキの新潟県における分布
(川端 1988 ●分布追加)

2本のヨコグラノキを中心(根元から)にして周辺 5×5mの範囲で調査

高木層 (8m~): ヨコグラノキの他、アズキナシ+・1、アワブキ+・1、コナラ+・1、フジ+・1、ウヰミズザクラ+・1

亜高木層 (2~8m): マルバマンサク+・1、アワブキ+・1、ヤマツツジ+・1

低木層 (80cm~2m): チャボガヤ2・3、ユキツバキ1・2、ヤマツツジ1・2、ナツハゼ1・2、ヒメアオキ1・2、マルバマンサク+・1、ハナイカダ+・1、エゾツリバナ+・1、マルバアオダモ+・1、ウラジロガシ+・1、カマツカ+・1、コマユミ+・1、ムラサキシキブ+・1

草本層 (80cm以下): トキワイカリソウ2・3、サルトリイバラ1・2、イワガラミ1・2、ヒメアオキ1・2、ハナイカダ1・2、チャボガヤ1・2、ヒメカンズゲ1・2、ユキツバキ+・1、コナラ+・1、ホソバカンズゲ+・1、マルバアオダモ+・1、ナツハゼ+・1、チマキザサ+・1、ウスノキ+・1、サワダツ+・1、ヤマユリ+・1、フジ+・1、ヤブコウジ+・1、コマユミ+・1、オクチョウジザクラ+・1、ヤマボウシ+・1、アクシバ+・1、アキノキリンソウ+・1、ウゴツクバネウツギ+・1

ヨコグラノキ生育地周辺のツバキ

ヨコグラノキ生育地の周辺には、ツバキが生育している。ツバキにはヤブツバキとユキツバキがあるが、ここに生育しているツバキの群落には、純粋のユキツバキだけでないようで、ヤブツバキの形質を持った個体が一部含まれている。両者の区別は花のない時期には葉柄の毛の有無によって判断している。無毛のものがヤブツバキの形質を有している個体の可能性が高い。無作為に採集した枝43個体の葉柄を調べると、無毛のもの2個体、僅かに生えているもの9個体、やや多く生えているもの12個体、ユキツバキにみられるように多数生えているもの20個体であった。このことから、この集団はかなりユキツバキに近い集団と判断される。ほとんどがユキツバキで、一部ユキバタツバキを含んでいる群落と推定される。上記ではユキツバキと記録している。県の南部でも本種の生育地にはユキツバキが生育しているので、県内ではユキツバキと共存しているが、全国的には稀な例と思われる。

ヨコグラノキは、上記のように分布域が限られていることから、新潟県では、地域個体群LPに位置づけている。また、長野県では絶滅危惧種(VU)である。前記のように新潟県内では南西部に偏って分布し、本生育地は、そこから隔離して分布している。調査時には、大きな樹だけであり、低木や実生を見ることができなかった。ここに生育する樹は、ヨコグラノキとしては古木と思われ、もし枯死するようなことがあれば、絶滅の可能性がある。2004年に多数の花が咲いたので、果実が成熟して付近に散布され、実生による次代への継承を期待したいものである。

2. ホタルカズラの生育地

Lithospermum zollingeri DC.

本種の県内における分布は特色があり、主に海岸沿いの低海拔地と内陸の阿賀野川流域、上越市関川の上流部に生育し、信濃川沿いでは長野県に生えている(図4)。分布の類型としてはラショウモンカズラ型の1種とみられる。南蒲原郡田上町と五泉市にまたがる護摩堂山の分布については、坪谷(1975)が記録している。県内の分布としては、河川沿いでなくて、内陸部に分布していることで興味深い(写真17)。

今回調査した本種の生育地は五泉市菅沢護摩堂山 200m [新津 5639-40-58]であり、その生育地の植生は次のようである。[標本:IS-402650('04)、(写真17)]

ホタルカズラ(群生)生育地(範囲5m×5m)

亜高木層(高さ2~8m未満): クマノミズキ2・3、ミツバアケビ1・1、アケビ1・1、ウヰミズザクラ1・1、ヤマゲワ1・1、エノキ1・1、タニウツギ1・1、スイカズラ1・1

低木層(高さ1~2m以下): ガマズミ1・1、クマイチゴ1・1、ヌルデ1・1、ハイイヌツゲ1・1、タニウツギ1・1、ヤマゲワ1・1、ヒノキアスナロ1・1、エゾツリバナ1・1

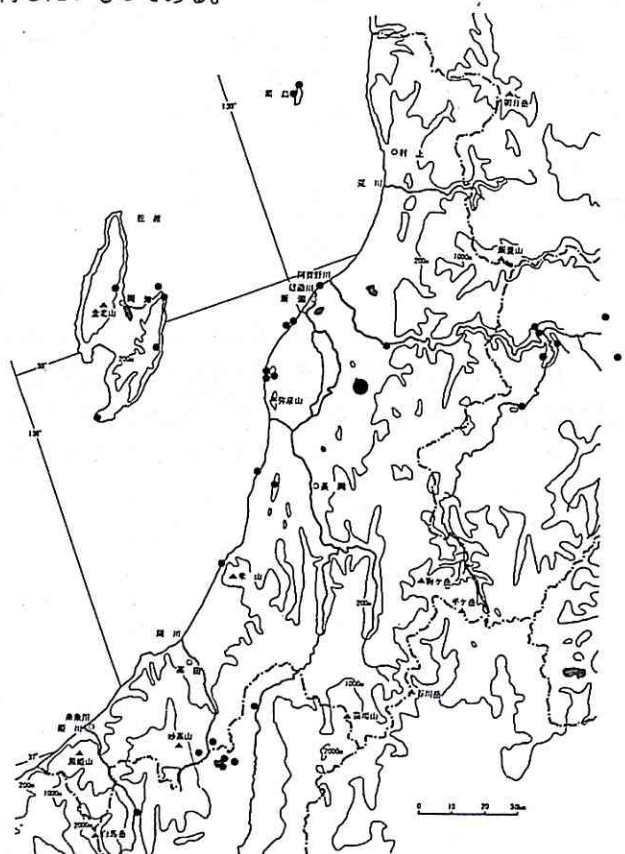


図4 ホタルカズラの新潟県における分布
(松田 1981●分布追加)

草本層(高さ1m以下): クサイチゴ3・4、ホタルカズラ2・3、キツタ2・3、エゾツリバナ1・1、ヒメコウゾ1・1、ガマズミ1・1、ミツバアケビ1・1、アケビ1・1、クサギ1・1、ヒメアオキ1・1、ハイイヌツゲ1・1、コマユミ1・1、ウマノミツバ1・1、チヂミザサ1・1、クズ1・1、ミヤマイボタ1・1、クマイチゴ1・1、ウリノキ1・1、アオツツラフジ1・1、サンショウ1・1、ヒノキアスナロ1・1、ヌルデ1・1、オニドコロ1・1、ミチノクヨロイグサ1・1、タニウツギ1・1、ガマズミ1・1、ノイバラ1・1、サルトリイバラ1・1、チゴユリ1・1、オオバクロモジ1・1、アカメガシワ1・1、ボタンツル1・1、オオタチツボスミレ1・1、ススキ1・1、ヒヨドリバナ1・1、カラムシ1・1、オオニワトコ1・1、フキ1・1、ケヤキ(実生)+・1

本種の生育地は、県内では、比較的乾燥した条件の所に生えており、林内よりは林縁によく見かける。本種の生育地にはユキツバキが生育していない場合が多く、ユキツバキとは住み分けているようである。ラショウモンカズラ型の植物の多くは、県内でも積雪量の少ない地域に分布している傾向があり、本種もその一例に当たるとと思われる。

ホタルカズラは、新潟県では絶滅危惧VUに位置づけている。

文 献

- 池上義信・石沢 進(1987) ホタルカズラ分布追加 新潟県植物分布資料(7) 新潟県植物分布図集 第8集:419.
池上義信・石沢 進(1990) 新潟県植物分布資料(10) 新潟県植物分布図集 第11集:87.
池上義信・石沢 進(1994) 新潟県植物分布資料(14) 新潟県植物分布図集 第15集:127.
石沢 進・朱 雁(2001) 新潟県植物分布資料(1) 新津植物資料室年報 2001:10.
石沢 進・朱 雁(2002) 新潟県植物分布資料(2) 新津植物資料室年報 2002:7-13.
川端義一(1988) ヨコグラノキ 新潟県植物分布図集 第9集:195-196.
牧野恭次(1994) 新潟県植物分布図集 第15集:5-7. (イノモトソウの分布図)
松田義徳(1981) ホタルカズラ 新潟県植物分布図集 第2集:287-288.
松田義徳(1981) アイズスゲ 新潟県植物分布図集 第2集:373-375.
長野県自然保護研究会(2002) 長野県版レッドデータブック 維管束編
高橋 務(1994) マンネンズギとフタバアオイの分布 新潟県植物分布図集 第15集:40.
高橋 務(2002) 自然短信 2001 (ヨコグラノキ) 加茂生物同好会会報 No. 9: (7頁)
高橋 務(2003) ヨコグラノキの生育地 加茂生物同好会会報 No. 10: (3頁)
坪谷富男(1975) 護摩堂山の植物(予報) じねんじょ No. 7:1~28. 植物同好じねんじょ会.
鷲尾和行(1984) 新潟県植物分布図集 第5集:3-6. (オオバノイノモトソウの分布図)

今回の報告では、ヨコグラノキとホタルカズラ共に生育地の発見に関わりのある増井富雄氏に現地を案内して頂きました。同氏には厚くお礼申し上げます。